

取組事例の名称		阿武隈川下流域下水道県南浄化センター災害復旧建設工事	
概要	対象	管路	
	種別	<input type="checkbox"/> 救援 <input checked="" type="checkbox"/> 機能回復 <input type="checkbox"/> 新・増設 <input type="checkbox"/> 復興 <input type="checkbox"/> その他 ( )	
	規模	管渠布設替え $\phi 200 \sim \phi 800$ 483m 管更生 止水工法 $\phi 200 \sim \phi 1200$ 13ヶ所 部分更生工法 $\phi 200 \sim \phi 1200$ 26ヶ所	
	実施会社	安藤建設株式会社	
	実施場所	宮城県 岩沼市・町・村	
	発注者	日本下水道事業団	

1. 工事等取組の目的及び概要と採用した技術名称

名称：管更生

東日本大震災による液状化で浄化センター内の配管が破損している箇所が多数確認された。沈下により汚水の流量が確保できない部分は布設替えをするが、高さの変位がない箇所は管路の部分更生により復旧する方法が採用された。

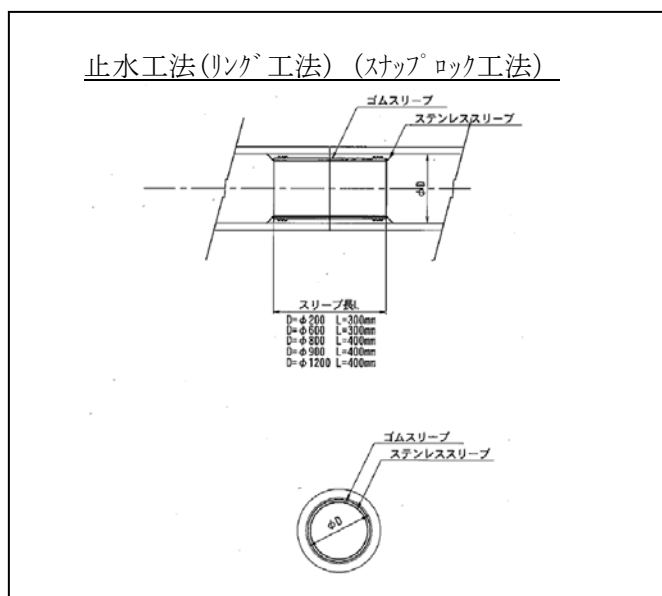
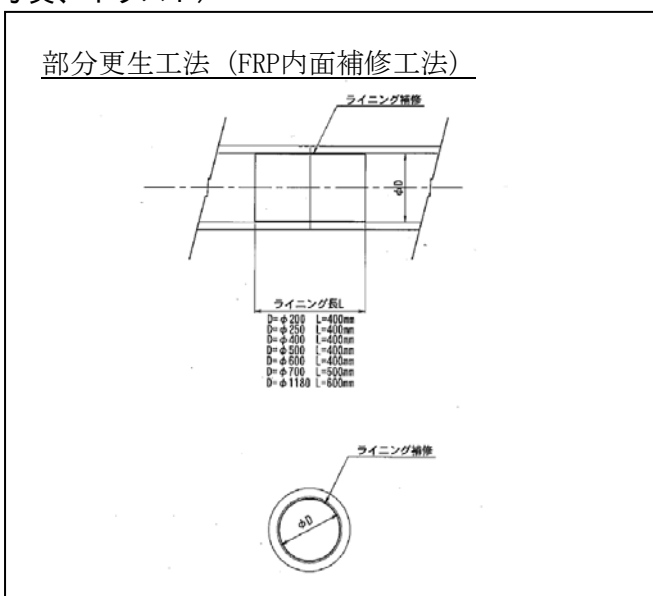
2. 当該技術を採用した理由、当該技術に期待した成果

止水目的 リング工法

管補強 FRP工法

- ・ 非開削で管路の復旧が可能である。
- ・ 稼働している浄化センター内の汚泥流水を停止させることなく管路を部分的に復旧が可能である。
- ・ 内水圧、外水圧の耐える強度が期待できる。

(写真、イラスト)



取組事例の名称	阿武隈川下流域下水道県南浄化センター災害復旧建設工事
<p>3. 工事等の実施に当たっての課題や留意した事項、苦労した事柄・教訓</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・稼働している浄化センターなので、流下している汚泥及び施設から硫化水素が常時発生している中で施工をおこなう状況であり、換気設備と有害ガス検知器は常設である。</li> <li>・施設の復旧工事と同じ時期の工事なので、水処理施設の供用開始の各段階で流量が増加し、施工工程の調整が必要であった。</li> </ul>	
<p>4. 実施後の成果に対する発注者や地元住民等の評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし。</li> </ul>	
<p>5. 採用した技術に対する改善点、望まれる技術</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・管更生された管をさらに更生をおこなう箇所は、今回採用した部分更生工法では対応できないので発注者と協議が必要であった。災害復旧工事は複合的な要素で損壊しているので多様性が望まれる。</li> </ul>	
<p>6. 今回の取組を通じ、将来の災害対応の為に準備すべきと感じた事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・管路の老朽化がはげしく鉄筋コンクリート管、マンホールの二次製品とも下水の流末処理施設として定期的な改築・改修は継続的に必要と考えられる。</li> </ul>	
NETIS登録	